



「人の力」を生かす土壌づくりが 秋田の躍進に繋がる

[秋田市観光クチコミ大使]
日本ビューホテル(株) 執行役員 総務部長

さとう かず ひこ
佐藤 和彦氏

秋田での仕事

平成21年5月から平成24年4月の3年間は副総支配人として、平成26年5月から平成29年3月の3年間は総支配人として、2度の期間、都合6年にわたり秋田ビューホテルで秋田の様々な関係の皆様に変なお世話になりながら仕事をさせていただきました。

恥ずかしながら秋田着任時の一番の驚きは、「ハタハタのぶりこ」が紫色でこの世の食べものとは思えなかった事と、新鮮な「わらび」が糸をひいて腐りかけていると思ってしまった事、今ではいずれも大好きですが…。

昨今のホテル業を取り巻く環境

2020年の東京オリンピック開催決定後、急激なインバウンド（訪日外国人観光客）の増加が大きな引き金となり、首都圏を中心に新規ホテルの開業ラッシュが続いている反面、年々顕著化する少子高齢化による生産年齢層の減少による人手不足、それに伴う人件費の高騰、自然災害の多発などホテルを運営する環境はますます厳しくなっています。

秋田が持つ「力」

私自身が秋田市に住みながら仕事をしていく中で、常日頃から感じていた事があります。それは義務教育過程のお子さんから人生のベテラン、シニア層の方々まで良い意味で独自性が強く、ありとあらゆる面で迎合しない個々の力強さがあるなあ、と感じていました。

同時に、秋田の代名詞ともいわれる「美味しいお米」「味わい豊かで力強い日本酒」「豊富な山菜とその食べ方」「秋田美人の活躍」などいまや長きに渡り全国区となっている名物が存在する中、県内各地、各家庭には、人知れず大切に育んできたオリジナルの食文化、隠れた秘伝の調理法、どんな世の中になろうがその時代時代で人々の心を元気にする地域独自の祭事やならわしなど、それこそまだ世の中

に知られていない、県内でもあまり知られていない秋田が持つ「力」が相当隠されているはずです。

これからのホテル業と秋田が持つ「力」の共通点

私自身が身を投じているホテル業も、AIなど人工知能の導入や、よりコストリスクが低い宿泊特化型のホテルへの転換など業務の効率化を最優先とした経営指針が中心となってきています。私自身の私信と現場での手応えではありますが、テクノロジーが進化すればするほど、「人の力」による差別化が際立つ時代になってきており、そんな時代だからこそ、「人」は「人の力による良い仕事」をより求めていると感じています。

これからのホテルは、スタッフである我々「人」が、マニュアルやこれまでのセオリー、あるいはブランドイメージだけにこだわらず、あらゆる年代層個々の個性と柔軟性を生かしてゲストの要望に応じていく価値を作り出していく事であると考えており、同じように私の第2の故郷「秋田」も、県内各地、各家庭、各個人レベルで地元で育まれてきた食を中心とした伝統文化、祭事、芸能、季節を表現するあらゆる素材などをもっと際立たせる事ができるブランディングをぜひとも進めるべきであり、「ホテル」も「秋田」もその独自性、他との差別化を集合体で表現するのではなく、「人の力」という「個」で際立たせていく事を最前線で表現していくべきであると思っています。

■略歴

昭和38年	福島県伊達市生まれ(旧伊達郡伊達町)
昭和61年	東洋大学経済学部卒業
同 年	日本ビューホテル株式会社入社
平成26年	秋田ビューホテル総支配人
平成29年	浅草ビューホテル執行役員総支配人
平成31年	日本ビューホテル株式会社執行役員 総務部長、現在に至る

秋田市観光クチコミ大使 … 秋田市に縁のある経済人や転勤等で過去に秋田市に在住経験のある方々に、身近な人々へのクチコミやインターネットでの情報発信を通じて、秋田市の観光PRにご協力いただくため委嘱している。